

プログラムに関わる医師が薬剤師の研修を行うことで、医師と薬剤師間の信頼関係が構築されるものとする。現在、薬剤師への MTM の教育は、大学教育の一環として実施されているが、加えて米国薬剤師協会による集中プログラムも準備されている。薬局は、日本同様、地域に拠点を有しており、患者にコミュニケーションの場と時間を提供するのに適している。これら、MTM にフォーカスした教育プログラムを有し、かつ、患者のアクセシビリティが高いことから、Medicare Modernization Act (2003)では、MTM の提供者として唯一、薬剤師を指定している⁶⁾。

本調査で回答した薬局の 83.2%で、薬局店舗に医療消費者がセルフチェックを行うための検査機能を有し、このうち 93.8%が検査結果により必要に応じて診療機関への受診を勧め、82.9%が結果に基づき必要に応じて生活習慣改善指導や栄養指導などを行っていると回答していた。また、65.5%で、医療消費者に積極的に声掛けし健康相談を行っているなど、薬局が地域における医療消費者の健康上の相談窓口の一つを担っていることが確認された。

一般用医薬品のリスク分類についての医師の認識は高いものではなく、第一類医薬品の販売時に薬剤師が情報提供・相談応需に関わる義務があることはあまり知られていない。本調査では、医師が医療消費者のセルフチェックのリスクについて、医療消費者が自身の病態を適切に判断し、その後の受診や医薬品の使用について正しい行動がとれない可能性を危惧していることがうかがえた。セルフチェック後に使用する可能性のある第一類医薬品(S-OTC 薬など)の販売方法が医師に理解されることによって、医師の懸念を解決する一助となると考える。

今回の調査で、医師は地域のセルフケア・セルフチェックを支援する体制の一員として薬局薬剤師にも期待を寄せていることが明らかとなったが、その一方で、薬剤師の知識やスキルの向上も必要としていた。今後、薬剤師が医療消費者のセルフチェックに続くセルフケアを支援していく際には、薬剤師の資質を医師が信頼できるものにする必要があると考えられる。

本研究の次年度には、今回の調査で比較的、医師との相互の問合せが多く、医師への受診勧奨奨数も多い薬局を選定し、医師、薬局、他の医療関係者間でどのような役割を定義しているか、薬局薬剤師の知識やコミュニケーションスキル向上の方法や、必要な人、物(医薬品や検査薬など)を詳細に調査分析する。

E. 結論

セルフチェック・セルフケアを支援する新しい医療提供体制の例と、必要な人材、インフラ、教育、物(一般用医薬品や検査薬等)について検討する目的で、全国のプライマリ・ケア医師ならびに薬局薬剤師に対して、現状について調査した。その結果、以下のことが確認された。

1. 医療関係職種が協力をして、地域の医療消費者の健康相談や教育を担っていくべきとする方向性は医師と薬剤師で同じであった。
2. 医師と薬局の協働の実践では、医師、薬剤師により濃淡があり、薬局機能について医師に伝える必要性もあると考えられた。
3. 薬局は地域における医療消費者の健康上の相談窓口の機能を有していた。
4. セルフケアに用いられる一般用医薬品やサプリメント、特定保健用食品は医師の実地診療においても活用が進んでいた。
5. 今後のスイッチ OTC 医薬品として薬剤師が

必要と考える医薬品および医療消費者より要望が高い医薬品は、血圧降下薬、コレステロール吸収阻害薬、頻尿・失禁治療薬であった。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

参考文献

1) 厚生労働省「医療費等の将来見通し及び財政影響試算」(2010年10月)

2) 日本経済新聞(平成24年2月19日付)

3) Medical therapy management in pharmacy practice: Core elements of an MTM service model (version 2.0) : J Am Pharm Assoc.48(3); 341-353, 2008

4) The Asheville Project: Long-Term Clinical and Economic Outcomes of a community Pharmacy Diabetes Care Program J Am Pharm Assoc.2003;43(2),173-184

5) 日本薬剤師会 医薬分業推進状況(保険調剤の動向)(平成21年度、平成22年度、平成23年度)<http://www.nichiyaku.or.jp/>

6) Medication Therapy Management Services : A critical review report(The Lewin Group 2005)

<http://www.accp.com/docs/positions/commentaries/mtms.pdf>

表 2 治療に利用した一般用医薬品、サプリメント、特定保健用食品

一般用医薬品(利用目的)	総回答数	回答数	%	サプリメント、特定保健用食品等 (利用目的)	総回答数	回答数	%
鉄剤(鉄欠乏性贫血)	664	44	6.6%	葉酸(妊娠可能女性)	664	19	2.9%
ビタミン剤	664	41	6.2%	亜鉛(味覚異常)	664	13	2.0%
総合感冒薬	664	19	2.9%	カロリーメイト(食思不振)	664	5	0.8%
漢方薬	664	13	2.0%	下痢、嘔吐に傾向補水剤	664	5	0.8%
ニコチンガム	664	10	1.5%	アミノ酸、微量元素などのサプリ(褥瘡)	664	4	0.6%
湿布	664	10	1.5%	グルコサミン(膝の変形性関節症)	664	4	0.6%
カルシウム剤	664	9	1.4%	ヨーグルト製剤(虚弱者)	664	3	0.5%
消化器用薬(H2B、太田胃酸)	664	7	1.1%	ビフィズス菌・ラクトフェリン(軽度の便秘等の腹部症状)	664	3	0.5%
創傷保護剤	664	6	0.9%	ルテインの内服(加齢黄斑変性症)	664	3	0.5%
保湿剤	664	6	0.9%	COQ10	664	3	0.5%
アセトアミノフェン	664	3	0.5%	食物繊維(便秘)	664	3	0.5%
フェルガード100M(DLBIに対して)	664	3	0.5%	コンドロイチン	664	2	0.3%
アレルギー性鼻炎(第二世代抗ヒスタミン剤)	664	2	0.3%	乳酸菌製剤(炎症性腸疾患)	664	2	0.3%
頭痛薬	664	2	0.3%	フェルラ酸(認知症予防)	664	2	0.3%
アシクロビル軟膏	664	2	0.3%	マルチビタミン剤(心因性疾患)	664	2	0.3%
ペボラップ	664	2	0.3%	口腔ケア	664	2	0.3%
下剤、緩下剤	664	2	0.3%	メラトニン(不眠症)	664	2	0.3%
スミスリンシャンプー(毛じらみ用)	664	2	0.3%	ゴマム半茶(血圧治療に対する動機付け)	664	2	0.3%
コーラック、ピオフェルミン	664	2	0.3%	フコダイン(胆ガン患者に)	664	2	0.3%
イソフラボン(更年期障害患者)	664	2	0.3%	αリポ酸、レスベタロール	664	1	0.2%
止しゃ剤	664	2	0.3%	命の母(月経前症状緩和)	664	1	0.2%
スイッチ外用剤	664	2	0.3%	アガリクス	664	1	0.2%
腫瘍シタゲ用剤	664	1	0.2%	DHC+EPA製剤(何度もOSDを再発する人)	664	1	0.2%
消毒剤	664	1	0.2%	SOD プラセンタ リアージュ	664	1	0.2%
うがい薬	664	1	0.2%	アスタキチンサン、セサミン	664	1	0.2%
ロキソプロフェン	664	1	0.2%	筋肉強壮剤	664	1	0.2%
ネオカキックス(癌ターミナルの慢性咳)	664	1	0.2%	寒天(肥満・生活習慣病)	664	1	0.2%
DXE軟膏(しもやけ)	664	1	0.2%	オーラルバランス	664	1	0.2%
人口涙液	664	1	0.2%	酵母食品	664	1	0.2%
				鼻汁吸入スポイド	664	1	0.2%
				大麦若葉	664	1	0.2%

別表1 医師を対象とした調査結果

■主設問

Q1. あなたの活動されている地域では、地域住民が健康相談を受ける機会としてはどのようなものがありますか。あてはまるものすべてをお選びください。その他があれば、具体的にご記入ください。

健康相談を受ける機会	対象	回答数	割合
自治体が行う集団健診	664	580	87.3%
医療機関で行う個別健診(自治体の委託健診や人間ドックも含む)	664	614	92.5%
自治体が行う健康相談(健康フェア/祭り等も含む)	664	443	66.7%
薬局店舗でのセルフチェック	664	170	25.6%
保険組合、農協・商工組合が行う健診、健康相談、健康イベントなど	664	308	46.4%
企業が開催する健康フェア・イベントなど	664	125	18.8%
その他(医師会、薬剤師会の開催する検診、医療生協の健康相談、医療機関が行う教室やイベントなど)	664	57	8.6%

Q2. 地域住民の方の健康相談をより効果的に行うために、連携するとよいと思われる医療関係職種を下記からお選びください。その他があれば具体的に記載ください。

医療関係職種	対象	回答数	割合
保健師	664	502	75.6%
看護師	664	594	89.5%
薬剤師	664	506	76.2%
歯科医師	664	466	70.2%
栄養士	664	507	76.4%
医療ケースワーカー	664	452	68.1%
その他(医師、理学療法士、地域包括支援センター職員、ケアマネジャー、ヘルパー等)	664	117	17.6%

Q3. 一般生活者が自らセルフチェック、セルフケアを行う際に、どのようなリスクがあると思われますか。また、そのリスクを最小化するにはどのような対応が必要とお考えですか。具体的にご記入ください。

	対象	回答数	割合
リスクの記載あり	664	504	75.9%
最小化の対応の記載あり	664	464	69.9%

リスク	対象	回答数	割合
TV、メディア、インターネットなど不正確な情報に基づく行動や心配(不正確な情報に踊らされる)	664	212	31.9%
副作用の発見の遅れ、合併症の悪化、過小評価、過大反応(不適切な結果判断)	664	195	29.4%
不適切な医薬品の服用(用法・用量・適応の間違いなど)	664	40	6.0%
誤った方法でのセルフチェック(血圧の測定時間、方法など)	664	31	4.7%
エビデンスが乏しいセルフケア	664	20	3.0%
お金の無駄遣い、詐欺まがいの可能性(経済的な損失)	664	22	3.3%
ケアやチェックの継続的に行われない	664	10	1.5%
検査センターなどから個人情報の流出	664	6	0.9%
対応する医療者の知識不足	664	1	0.2%

最小化の対応	対象	回答数	割合
相談窓口の設置	664	205	30.9%
住民への正しい知識の啓発	664	181	27.3%
健康食品の広告規制	664	33	5.0%
第三者によるセルフチェック・セルフケアの科学的評価、監視	664	17	2.6%
セルフチェック結果を医療者が確認できるシステムの構築	664	16	2.4%
簡便で再現性のすぐれたもの、誤解のない判定方法の構築	664	14	2.1%
リスク情報の開示	664	3	0.5%
その他	664	3	0.5%

Q4. 一般生活者がセルフチェック(血圧を自己測定したり健診を進んで受けるなど)の結果の解釈やその後の行動(受診など)を支援する体制(関わる人、物、機関等)を地域で構築する必要があるとお考えですか。あてはまるものをひとつお選びください。

セルフチェックへの支援体制	対象	回答数	割合
支援体制を新たに構築する必要がある	664	149	22.4%
現状の支援体制を強化する必要がある	664	349	52.6%
支援体制はすでに整っている	664	50	7.5%
支援体制は特にないが、構築する必要はない	664	29	4.4%
わからない	664	87	13.1%

Q5-1. どのような支援体制を構築すべきとお考えですか。また、その理由もご記入ください。(Q4で「1」を選択されてる人のみ)

	対象	回答数	割合
支援体制の記載あり	149	119	79.9%
理由の記載あり	149	72	48.3%
構築すべき支援体制			
	対象	回答数	割合
行政、医師主導の体制	149	34	22.8%
フォローアップ、相談窓口の設置	149	28	18.8%
医療消費者教育、自己啓発(継続的、若年から)、広報、周知の強化	149	20	13.4%
地域住民からなる健康サポーター、地域が担う教育	149	4	2.7%
多職種での医学的知識の共有化と連携による支援	149	13	8.7%
セルフチェック結果のデータベースの構築	149	11	7.4%
薬局薬剤師の活用	149	2	1.3%
保健師の活用	149	1	0.7%
健診の充実	149	4	2.7%
その他	149	15	10.1%

Q5-2. どのように支援体制を強化すべきとお考えですか。また、その理由もご記入ください。(Q4で「2」を選択されてる人のみ)

	対象	回答数	割合
支援体制の記載あり	349	277	79.4%
理由の記載あり	349	202	57.9%
強化すべき支援体制			
	対象	回答数	割合
行政、医師主導の体制	349	8	2.3%
フォローアップ、相談窓口の設置	349	62	17.8%
医療消費者教育、自己啓発(継続的、若年から)、広報、周知の強化	349	50	14.3%
地域住民からなる健康サポーター、地域が担う教育	349	7	2.0%
多職種での医学的知識の共有化と連携による支援	349	30	8.6%
セルフチェック結果のデータベースの構築	349	12	3.4%
薬局薬剤師の活用	349	6	1.7%
保健師の活用	349	11	3.2%
健診の充実	349	15	4.3%
かかりつけ医をつくる	349	22	6.3%
その他	349	21	6.0%

Q5-3. どのような支援体制を構築されていますか。具体的にご記入ください。(Q4で「3」を選択されてる人のみ)

	対象	回答数	割合
支援体制の記載あり	50	44	88.0%
構築している支援体制			
	対象	回答数	割合
行政、医師主導の体制	50	12	24.0%
フォローアップ、相談窓口の設置	50	9	18.0%
医療消費者教育、自己啓発(継続的、若年から)、広報、周知の強化	50	4	8.0%
薬局薬剤師の活用	50	2	4.0%
保健師の活用	50	6	12.0%
健診の充実	50	9	18.0%
医療機関の連携	50	3	6.0%

Q5-4. 支援体制が必要でないと思われる理由をご記入ください。(Q4で「4」を選択されてる人のみ)

	対象	回答数	割合
必要でない理由の記載あり	29	27	93.1%
支援体制が必要でない理由			
	対象	回答数	割合
医療機関にかかれれば十分	29	12	41.4%
個人の責任で行うべき	29	9	31.0%
支援体制が必要な理由がわからない	29	3	10.3%
財政を考慮するとこれ以上の 公的負担をかけるべきでない	29	2	6.9%
マスメディアの広報や教育で実施すべき	29	1	3.4%

Q6 地域住民に対し、セルフチェック(血圧を自己測定したり健診を進んで受けるなど)についての知識を得て、自らの健康を管理する意識をもち、健康を維持するよう行動を変えていくために、どういふことが必要と考えますか。具体的に記入ください。(例:高校までの学校教育での健康教育、地域住民への講演会など)

地域住民に必要なこと	対象	回答数	割合
記載あり	664	519	78.2%

主体者	内容	対象	回答数	割合
学校	授業の一環として健康教育	664	170	25.6%
地域	授業の一環として健康教育	664	5	0.8%
学校	健康啓発	664	24	3.6%
地域	健康啓発	664	27	4.1%
自治体	健康啓発	664	19	2.9%
職場	健康啓発	664	13	2.0%
医師	健康啓発	664	11	1.7%
マスコミ	健康啓発	664	9	1.4%
地域	講演会、WS	664	44	6.6%
自治体	講演会、WS	664	7	1.1%
職場	講演会、WS	664	6	0.9%
地域	受診する環境の整備	664	5	0.8%
職場	受診する環境の整備	664	6	0.9%
その他		664	37	5.6%

Q7. 地域の薬局との下記の関わりについて過去1年間の状況について、あてはまるものをそれぞれひとつお選びください。また、その他地域の薬局との連携活動や関わりがあれば、その内容と頻度をご記入ください。なお、地域の薬局とは、特定の薬局だけでなく、あなたの活動する地域にある薬局すべてをまとめてお考えください。

Q7-1 処方箋を院外薬局へ出されていますか

	対象	回答数	割合
すべてを院外へ出している	664	345	52.0%
一部を院外へ出している	664	244	36.7%
院外へ出していない	664	75	11.3%

Q7-2 薬局へくすりの情報の問合せを行うことありますか

	対象	回答数	割合
よく行っている(毎週)	664	147	22.1%
ときどき行っている(月に1~2回程度)	664	178	26.8%
まれに行っている(年に数回程度)	664	112	16.9%
ほとんど行っていない	664	116	17.5%
行っていない	664	111	16.7%

Q7-3 薬局からの問合せ(疑義照会を含む)に回答することはありますか

	対象	回答数	割合
よくしている(毎週)	664	305	45.9%
ときどきしている(月に1~2回程度)	664	178	26.8%
まれにしている(年に数回程度)	664	98	14.8%
ほとんどしていない	664	32	4.8%
回答していない	664	51	7.7%

Q7-4 薬局から患者さんを紹介されたことはありますか

	対象	回答数	割合
ない	664	558	84.0%
ある	664	106	16.0%
薬局から紹介された患者数/年			
	対象	回答数	割合
0人	664	558	84.0%
1~5人	664	78	11.7%
6~10人	664	18	2.7%
11~20人	664	3	0.5%
21~50人	664	5	0.8%
51人以上	664	2	0.3%
平均	0を含む	1.3	0を含む 8.0

Q7-5 在宅医療を行なっている場合、何人ぐらいの患者さんで薬局と協力体制(薬のお届け、訪問服薬指導など)を築きましたか(往診同行も含む)

薬局と協力した在宅患者数/年	対象*	回答数	割合
0人	658	383	58.2%
1~5人	658	113	17.2%
6~10人	658	46	7.0%
11~20人	658	40	6.1%
21~50人	658	35	5.3%
51人以上	658	41	6.2%

*664件より、未回答6件を除いた

	0を含む	0を含まない
平均	14.4	34.0

Q7-6 過去1年間での共同で行った勉強会の回数

薬局と共同で行った勉強会の回数/年	対象*	回答数	割合
0回	660	477	72.3%
1回	660	45	6.8%
2回	660	31	4.7%
3回~5回	660	37	5.6%
6回~10回	660	27	4.1%
11回以上	660	43	6.5%

*664件より、未回答4件を除いた

	0を含む	0を含まない
平均回数(年)	2.1	7

Q7-7 その他、地域の薬局との連携活動や関わりがありましたら、その内容と頻度をご記入ください/内容

その他の関わり	対象	回答数	割合
記載あり	664	103	15.5%

	対象	回答数	割合
病状のやり取り	664	10	1.5%
外来患者ネットワーク、ケース会議	664	9	1.4%
三師会での会合	664	8	1.2%
スポーツアスリートへの対応、禁煙運動 緩和ケア	664	6	0.9%
勉強会、講習会	664	6	0.9%
往診同行	664	6	0.9%
懇親会	664	5	0.8%
薬局カンファレンスの参加	664	3	0.5%
夜間、救急医療での協力	664	3	0.5%
当院にきた実習生、研修医の薬局実習(年5人)、薬局に来た実習生を当院へ受け入れる(年5人ぐらい)	664	2	0.3%
OTCカウンセリング	664	1	0.2%
糖尿病教室(患者会)	664	1	0.2%
防災体制の構築	664	1	0.2%

Q8. 地域薬局の薬剤師の行っている服薬指導について、満足されていますか。各事項について、あてはまるものをお選びください。また、その回答を選ばれた理由もご記入ください。なお、地域の薬局とは、特定の薬局だけでなく、あなたの活動する地域にある薬局すべてをまとめてお考えください。

Q8-1 薬の服用方法についての説明

満足度	対象	回答数	割合
大変満足	664	33	5.0%
ほぼ満足	664	300	45.2%
やや不満	664	66	9.9%
不満	664	33	5.0%
わからない	664	232	34.9%

大変満足の主な理由: 患者からの不満がない、患者の生活背景に即した指導、服薬指導内容、バイタルサインの報告

ほぼ満足の主な理由: 患者からの不満がない、一酸化やカレンダーなどの服薬率向上の工夫、丁寧な説明

やや不満の主な理由: 画一的、時間が不足、知識不足、態度の問題、点鼻薬、吸入薬は丁寧に指導してほしい、薬剤師による質の差

不満の主な理由: 患者からのクレーム、不要な情報提供、サプリメントの販売、画一的、説明不足

Q8-2 薬の有効性についての説明

満足度	対象	回答数	割合
大変満足	664	28	4.2%
ほぼ満足	664	269	40.5%
やや不満	664	72	10.8%
不満	664	25	3.8%
わからない	664	270	40.7%

大変満足の主な理由: 患者からの不満なし

ほぼ満足の主な理由: 患者からの不満なし、患者がよく理解できている、副作用防止に有効、抗血小板剤をPADで使っている場合、「脳梗塞・狭心症の薬」と説明があり、患者さんが困惑することがある、一般的な薬理学としての薬効説明は行っていますが、我々の考えるEBMIに基づく処方理由については知識の一致が少なく、そこまでの説明には至っていない、EBMIについての知識が浅く、医師との説明に差が出ることがある

やや不満の主な理由: 副作用の説明がオーバーで、素人の患者に無用な不安を与え、結果として服用しない事さえある。有効性についても幅広い有効性の一部(時に見当違いの)説明に終わる、薬剤師が病状を把握していないことがある。医師と薬剤師のコミュニケーションツールが必要

不満の主な理由: 副作用を大きく話す、添付文書通りで型どおりの説明はやめて欲しい。もっと個々に応じた説明をして欲しい、主治医の説明との齟齬

Q8-3 薬の副作用についての説明

満足度	対象	回答数	割合
大変満足		664	27 4.1%
ほぼ満足		664	223 33.6%
やや不満		664	115 17.3%
不満		664	35 5.3%
わからない		664	264 39.8%

大変満足の主な理由： 必要なときはこちらに情報をfeedbackしてくれる、我々の気づかない相互作用についても電話やFAXでも情報提供、時に他科の疾患をチェックに連絡してもらうことあり

ほぼ満足の主な理由： 患者から話が分かりやすいと聞く、不安をあおらない説明、相互作用確認

やや不満の主な理由： 説明しすぎ、画一的、不安をあおる、大事な副作用を知らない患者がいる

不満の主な理由： 説明しすぎ、画一的、不安をあおる、大事な副作用を知らない患者がいる

Q9. 地域の薬局がもっと住民のセルフチェックや病気の予防に関わるためには、どうすれば良いと思いますか。あてはまるものすべてをお選びください。また、その他にありましたら、具体的にご記入ください

要件	対象	回答数	割合
薬剤師の医療者としてのマインドの醸成		664	337 50.8%
薬剤師の知識(予防のための知識、技能など)の向上		664	327 49.2%
薬剤師の患者とのコミュニケーションスキルの向上		664	357 53.8%
行動科学や患者心理の学習		664	221 33.3%
医師、栄養士、保健師など他の医療関係者間で、どのような場合に、どのような連絡を行うか(潜在患者の紹介を含む)など、あらかじめ合意した手順を定める(役割と連携)		664	378 56.9%
ITシステム・インフラ等の整備		664	155 23.3%
その他(長崎あじさいネットのように薬剤師がカルテを閲覧する、薬局などの薬剤師の役割の周知、薬局への疾患名の共有、経済的支援など)		664	88 13.3%

Q10. 一般用医薬品(いわゆるOTC医薬品)についてお聞きします。あてはまるものをひとつお選びください。

	対象	回答数	割合
一般用医薬品に、第一、二、三類の分類があることを知らなかった		664	220 33.1%
一般用医薬品に、第一、二、三類の分類があることは知っていたが、具体的にどのような医薬品が各分類に入っているかよく知らなかった		664	357 53.8%
一般用医薬品はよく理解している		664	87 13.1%

Q11. あなたは一般用医薬品の使用を患者に勧めたことがありますか。

	対象	回答数	割合
ない		664	382 57.5%
ある		664	282 42.5%

Q12. Q11で「2」を選択された方にお聞きします。あなたはどのような場合に、一般用医薬品の使用を患者さんに勧めましたか。あてはまるものをお選びください。その他の例がありましたら、具体的にご記入ください。

	対象	回答数	割合
医療用医薬品では用量が多すぎると判断された場合(例: 経口の鉄剤)		282	59 20.9%
医療用医薬品に適切な成分がない場合(例: 壮年性脱毛症治療用のヘアトニック)		282	88 13.3%
その他		282	179 63.5%

その他	対象	回答数	割合
副作用の可能性が低く医療用である必要がないと判断した		282	3 1.1%
医療用よりも有効と判断したとき		282	10 3.5%
患者の症状と通院アクセス、利便性を考慮		282	39 13.8%
用量が少なすぎる場合		282	1 0.4%
保険で長期投与ができないとき		282	4 1.4%
医療用ではのみにくとき(漢方薬など)		282	4 1.4%
価格が安価		282	16 5.7%
常備薬		282	7 2.5%
不安回避		282	3 1.1%
OTCで充分		282	6 2.1%

Q13. あなたはサプリメント、特定保健用食品を治療に活用されたことがありますか。

	総回答数	回答数	割合
ない	664	520	78.3%
ある	664	144	21.7%

Q14. サプリメント、特定保健用食品を治療に活用されたことがある場合、具体的な活用事例をご記入ください。

	総回答数	回答数	割合
活用したことがある	664	131	19.7%

具体的な利用事例(一般用医薬品、サプリメント、特定保健用食品)

■回答者の属性設問

F1.あなたの所属施設は以下のどちらですか。

選択肢内容	対象	回答数	割合
クリニック・診療所	664	358	53.9%
病院(20床以上)	664	306	46.1%

F2.あなたの所属する医療機関内に薬剤師は勤務していますか。

選択肢内容	対象	回答数	割合
勤務していない	664	316	47.6%
勤務している	664	348	52.4%

F3.あなたの主な診療科をお知らせください。

選択肢内容	対象	回答数	割合
総合診療科	664	185	27.9%
一般内科	664	291	43.8%
循環器科	664	16	2.4%
腎臓内科	664	4	0.6%
消化器科	664	20	3.0%
呼吸器科	664	7	1.1%
アレルギー科	664	0	0.0%
代謝・内分泌科	664	10	1.5%
血液内科	664	2	0.3%
神経内科	664	5	0.8%
心療内科	664	4	0.6%
膠原病科	664	1	0.2%
精神・神経科	664	6	0.9%
外科	664	25	3.8%
整形外科	664	10	1.5%
形成外科	664	0	0.0%
脳神経外科	664	6	0.9%
泌尿器科	664	5	0.8%
皮膚科	664	0	0.0%
産婦人科	664	3	0.5%
小児科	664	17	2.6%
耳鼻咽喉科	664	4	0.6%
眼科	664	2	0.3%
口腔外科	664	0	0.0%
放射線科	664	1	0.2%
麻酔科	664	1	0.2%
救急医療科	664	8	1.2%
リハビリテーション科	664	2	0.3%
リウマチ科	664	3	0.5%
その他	664	26	3.9%

F4.あなたが診られている月あたりの平均患者数をお知らせください。おおよその数字でかまいません。

平均患者数(月)	対象	回答数	割合
249人以下	664	251	37.8%
250人～499人	664	151	22.7%
500人～749人	664	128	19.3%
750人～1000人	664	50	7.5%
1001人以上	664	75	11.3%
未記入	664	9	1.4%
		未記入を含まない	
平均		467	

F5.あなたは居宅(在宅)医療を実施されていますか。実施している場合、月当たりの平均患者数もご記入ください。実施していない場合は、「0」とご記入ください。

平均在宅患者数(月)	対象	回答数	割合
0人	664	292	44.0%
1人～20人	664	225	33.9%
21人～40人	664	76	11.4%
41人～60人	664	32	4.8%
61人～80人	664	12	1.8%
81人以上	664	27	4.1%
		0を含む	0を含まない
月当たりの平均在宅医療の患者数		14	24

F6.あなたのご年齢をお知らせください。

世代	対象	回答数	割合
20歳代	664	19	2.9%
30歳代	664	146	22.0%
40歳代	664	166	25.0%
50歳代	664	179	27.0%
60歳代	664	81	12.2%
70歳以上	664	73	11.0%

< 回答者の地域 >

地域	対象	回答数	割合
北海道	187	14	7.5%
東北	187	6	3.2%
関東	187	53	28.3%
中部	187	16	8.6%
近畿	187	41	21.9%
中国	187	19	10.2%
四国	187	20	10.7%
九州沖縄	187	18	9.6%

別表2 薬剤師を対象とした調査結果

■主設問

Q1. あなたの活動されている地域では、地域住民が健康相談を受ける機会としてはどのようなものがありますか。あてはまるものすべてをお選びください。その他があれば、具体的にご記入ください。

健康相談を受ける機会	対象	回答数	割合
自治体が行う集団健診	310	248	80.0%
医療機関で行う個別健診(自治体の委託健診や人間ドックも含む)	310	241	77.7%
自治体が行う健康相談(健康フェア/祭り等も含む)	310	239	77.1%
薬局店舗でのセルフチェック	310	206	66.5%
保険組合、農協・商工組合が行う健診、健康相談、健康イベントなど	310	135	43.5%
企業が開催する健康フェア・イベントなど	310	53	17.1%
その他(歯科医師会、薬剤師会主催の健康フェアなど)	310	13	4.2%

Q2. 地域住民の方の健康相談を効果的に行うために、連携するとよいと思われる医療関係職種を下記からお選びください。その他があれば具体的に記載ください。

医療関係職種	対象	回答数	割合
医師	310	285	91.9%
保健師	310	228	73.5%
看護師	310	211	68.1%
歯科医師	310	233	75.2%
栄養士	310	214	69.0%
医療ケースワーカー	310	152	49.0%
その他(ケアマネジャー、町の役員、民生委員、薬剤師、精神保健福祉士、運動指導士、理学療法士、鍼灸師)	310	68	21.9%

Q3. あなたの勤務する薬局では、セルフチェックのための検査機能(検査機器あるいは検査受付機能)を有していますか。薬局に有している機能に○をつけてください。

検査機能	対象	回答数	割合
何も有していない	310	52	16.8%
体重、体脂肪測定のための機器を設置している	310	148	47.7%
身長測定のための機器を設置している	310	10	3.2%
骨密度測定のための機器を設置している	310	17	5.5%
肺機能測定のための機器を設置している	310	5	1.6%
血圧、脈拍測定のための機器を設置している	310	242	78.1%
血糖値測定のための機器を設置している	310	47	15.2%
総コレステロール測定のための機器を設置している	310	2	0.6%
中性脂肪測定のための機器を設置している	310	4	1.3%
その他の機器を設置している(パルスオキシメーター、体温計、簡易心電図計、遺伝子試験、血流計、検尿テープ、妊娠診断薬、聴覚診断、脳年齢診断など)	310	16	5.2%
検査センターと連携し、自己採血・検査受付業務を行っている	310	5	1.6%

Q4. Q3の検査結果についてどのような対応がされていますか。あてはまるものすべてをお選びください。その他の対応を行っている場合は、具体的にご記入ください。

検査結果についての対応	対象	回答数	割合
結果に基づき、必要な場合、生活習慣改善や栄養指導などを行っている	258	214	82.9%
結果に基づき、必要な場合、診療機関への受診を勧めている	258	242	93.8%
結果に基づき、必要な場合、診療機関へ患者さんの紹介を行っている	258	69	26.7%
結果に基づき、OTCや健康食品などをすすめている	258	130	50.4%
結果について薬局が関与することはない	258	14	5.4%
その他	258	8	3.1%

Q5. 一般生活者がセルフチェック(血圧を自己測定したり健診を進んで受けるなど)の結果の解釈やその後の行動(受診など)を支援する体制(関わる人、物、機関等)を地域で構築する必要があるとお考えですか。

セルフチェックへの支援体制	対象	回答数	割合
支援体制を新たに構築する必要がある	310	83	26.8%
現状の支援体制を強化する必要がある	310	127	41.0%
支援体制はすでに整っている	310	20	6.5%
支援体制は特にないが、構築する必要はない	310	14	4.5%
わからない	310	66	21.3%

Q6-1. どのような支援体制を構築すべきとお考えですか。その理由もご記入ください。(回答は自由記載)(Q5で、「支援体制を新たに構築する必要がある」を選択した方のみ回答)

	対象	回答数	割合
支援体制の記載あり	83	83	100.0%
理由の記載あり	83	82	98.8%

支援体制	対象	回答数	割合
行政、医師主導の体制	83	3	3.6%
フォローアップ、相談窓口の設置	83	11	13.3%
医療消費者教育、自己啓発(継続的、若年から)、 広報、周知の強化	83	15	18.1%
地域住民からなる健康サポーター、地域が担う教育	83	9	10.8%
多職種での医学的知識の共有化と連携による支援	83	3	3.6%
セルフチェック結果のデータベースの構築	83	2	2.4%
薬局薬剤師の活用	83	28	33.7%
健診の充実	83	3	3.6%

Q6-2. どのように支援体制を強化すべきとお考えですか。その理由もご記入ください。(回答は自由記載)(Q5で、「現状の支援体制を強化する必要がある」を選択した方のみ回答)

	対象	回答数	割合
支援体制の記載あり	127	127	100%
理由の記載あり	127	127	100%

支援体制	対象	回答数	割合
行政、医師主導の体制	83	3	3.6%
フォローアップ、相談窓口の設置	83	11	13.3%
医療消費者教育、自己啓発(継続的、若年から)、 広報、周知の強化	83	15	18.1%
地域住民からなる健康サポーター、地域が担う教育	83	9	10.8%
多職種での医学的知識の共有化と連携による支援	83	3	3.6%
医療消費者側の経済サポート	83	0	0.0%
セルフチェック結果のデータベースの構築	83	2	2.4%
薬局薬剤師の活用	83	28	33.7%
健診の充実	83	3	3.6%

Q6-3. どのような支援体制を構築されていますか。具体的にご記入ください。(回答は自由記載)(Q5で、「現状の支援体制を強化する必要がある」を選択した方のみ回答)

	対象	回答数	割合
支援体制の記載あり	20	20	100%

支援体制	対象	回答数	割合
行政、医師主導の体制	83	3	3.6%
フォローアップ、相談窓口の設置	83	11	13.3%
医療消費者教育、自己啓発(継続的、若年から)、 広報、周知の強化	83	15	18.1%
地域住民からなる健康サポーター、地域が担う教育	83	9	10.8%
多職種での医学的知識の共有化と連携による支援	83	3	3.6%
セルフチェック結果のデータベースの構築	83	2	2.4%
薬局薬剤師の活用	83	28	33.7%
健診の充実	83	3	3.6%

Q6-4 支援体制が必要でないと思われる理由をご記入ください。(回答は自由記載)(Q5で、「支援体制は特にないが、構築する必要はない」を選択した方のみ回答)

	対象	回答数	割合
理由の記載あり	14	14	100%

必要でない理由	対象	回答数	割合
診療機関にかかれば十分である	14	7	50.0%
個人の責任で実施すべきである	14	6	42.9%

Q7. 地域住民に対し、セルフチェック(血圧を自己測定したり健診を進んで受けるなど)についての知識を得て、自らの健康を管理する意識をもち、健康を維持するよう行動を変えていくために、ということが必要と考えますか。具体的に記入ください。(例:高校までの学校教育での健康教育、地域住民への講演会など)

地域住民に必要なこと	対象	回答数	割合
記載あり	310	81	26%

主体者	内容	対象	回答数	割合
学校	授業の一環で教育	310	134	43.2%
地域	健康啓発	310	6	1.9%
地域	講演会、WS	310	8	2.6%
地域	イベント	310	12	3.9%
自治体	健康啓発	310	6	1.9%
自治体	広報	310	5	1.6%
マスコミ	健康啓発	310	17	5.5%
医療機関	健康啓発	310	8	2.6%
薬剤師	親の教育	310	8	2.6%
薬剤師	健康啓発	310	9	2.9%
薬剤師	授業の一環	310	5	1.6%
薬剤師	講演会、WS	310	6	1.9%
薬剤師	受診する環境の整備	310	5	1.6%
薬剤師	相談対応	310	11	3.5%

Q8-1. あなたの勤務する薬局では、地域の医師とどのような関わりをもたれていますか。過去1年間の状況について、あてはまるものをそれぞれひとつお選びください。また、その他地域の医師との連携活動や関わりがある場合は、その内容と頻度をご記入ください。医師からのくすりに関する問い合わせに対応していますか。

医師からの問い合わせ対応	対象	回答数	割合
よく行っている(毎週)	310	73	23.5%
ときどき行っている(月に1~2回程度)	310	97	31.3%
まれに行っている(年に数回程度)	310	105	33.9%
ほとんど行っていない	310	29	9.4%
行っていない	310	6	1.9%

Q8-2 医師に問合せを行っていますか(疑義照会を含む)

医師への問い合わせ	対象	回答数	割合
よく行っている(毎週)	310	191	61.6%
ときどき行っている(月に1~2回程度)	310	85	27.4%
まれに行っている(年に数回程度)	310	27	8.7%
ほとんど行っていない	310	5	1.6%
行っていない	310	2	0.6%

Q8-3 薬局にて医療消費者に積極的に声がけをし、健康相談を行われていますか

健康相談	対象	回答数	割合
している	310	203	65.5%
していない	310	107	34.5%

相談者数	対象	回答数	割合
0人	310	107	34.5%
1人~50人	310	95	30.6%
51人~100人	310	39	12.6%
101人~150人	310	17	5.5%
151人~200人	310	6	1.9%
201人以上	310	46	14.8%
平均		0を含む	0を含まない
過去1年間の健康相談数		193	293

Q8-4 薬局での医療消費者の健康相談の結果、医師へ患者さんを紹介していますか(受診勧奨)

医師への受診勧奨	対象	回答数	割合
よく行っている(毎週)	310	42	13.5%
ときどき行っている(月に1~2回程度)	310	130	41.9%
まれに行っている(年に数回程度)	310	114	36.8%
ほとんど行っていない	310	9	2.9%
行っていない	310	15	4.8%

受診勧奨数	対象	回答数	割合
0人	310	15	4.8%
1~5人	310	77	24.8%
6~10人	310	78	25.2%
11~20人	310	60	19.4%
21~50人	310	50	16.1%
51人以上	310	30	9.7%
平均		0を含む	0を含まない
過去1年間の受診勧奨数		42	44

Q8-5在宅医療を行なっている場合、何人ぐらいの患者さんと医師と協力体制(薬のお届け、訪問服薬指導など)を築きましたか(往診同行も含む)

訪問服薬指導	対象	回答数	割合
している	310	100	32.3%
していない	310	210	67.7%

訪問服薬指導数	対象	回答数	割合
0人	310	210	67.7%
1~5人	310	58	18.7%
6~10人	310	11	3.5%
11~20人	310	6	1.9%
21~50人	310	9	2.9%
51人以上	310	16	5.2%
平均		0を含む	0を含まない
過去1年間での実施人数		14	43

Q8-6過去1年間での共同で行った勉強会の回数

共同勉強会	対象	回答数	割合
している	310	155	50.0%
していない	310	155	50.0%

共同勉強会回数	対象*	回答数	割合
0回	260	105	40.4%
1回	260	13	5.0%
2回	260	26	20.1%
3回~5回	260	39	2.6%
6回~10回	260	35	3.2%
11回以上	260	42	0.6%

*310件より、未回答50件を除いた

平均	0を含む	0を含まない
過去1年間での共同で行った勉強会の回数	4	9

Q8-7その他の関わり

患者の病状のやり取り、在宅外来患者ネットワーク
救急、夜間診療所業務、三師会での会合、懇親会、
特定ケアでの協力(スポーツアスリートへの対応、禁煙運動 緩和ケア)
患者教育(糖尿病教室など)、防災体制の構築

Q9. 地域薬局が今後、患者予備群または潜在患者の掘り起こし、住民のセルフチェック等を導くためには、どのようなことが必要と思われますか。あてはまるものすべてをお選びください。また、その他に必要なと思われることがありましたら、具体的にご記入ください。

薬局に必要なこと	対象	回答数	割合
薬剤師の医療者としてのマインドの醸成	310	185	59.7%
知識(予防のための知識、技能など)の向上	310	265	85.5%
患者とのコミュニケーションスキルの向上	310	233	75.2%
行動科学や患者心理の学習	310	131	42.3%
医師、栄養士、保健師など他の医療関係者間で、どのような場合に、どのような連絡を行うか(潜在患者の紹介を含む)など、あらかじめ合意した手順を定める	310	181	58.4%
ITシステム・インフラの整備	310	87	28.1%

Q10. あなたが販売した最近1ヶ月間のOTC医薬品について、販売する際に情報提供と相談応需を行った割合は、何%程度ですか。およその数で構いません。

情報提供と相談応需を行った割合	対象	回答数	割合
0%	310	24	7.7%
20%以下	310	7	2.3%
21%~40%	310	54	17.4%
41%~60%	310	48	15.5%
61%~80%	310	48	15.5%
81%以上	310	104	33.5%
平均		0を含む	0を含まない
相談応需を行った割合		53	58

Q11. あなたご自身がOTC医薬品を販売する際に、受診勧奨を行ったことがありますか。過去1年間であなたが受診勧奨を行った人数をご記入ください。およその数で構いません。

受信勧奨を行った人数	対象	回答数	割合
0人	310	28	9.0%
1人~10人	310	85	27.5%
11人~20人	310	86	27.5%
21人~30人	310	36	11.7%
31人~40人	310	27	8.7%
41人~50人	310	4	1.3%
51人以上	310	44	14.2%
平均		0を含む	0を含まない
受診勧奨を行った人数		25	27

Q12. 今後、スイッチOTC医薬品として必要と思われる医薬品を最大3つまで選択してください。その他の場合、具体的な医薬品名をご記入の上選択してください。また、医療消費者より要望の高いものについても最大3つまでお選びください。

医薬品	対象	必要	必要(割合)	要望高	要望高(割合)
糖吸収阻害薬	310	79	25.5%	59	19.0%
コレステロール吸収阻害薬	310	105	33.9%	69	22.3%
血圧降下薬	310	87	28.1%	101	32.6%
プロトンポンプ阻害薬	310	72	23.2%	43	13.9%
吸入ステロイド薬	310	39	12.6%	24	7.7%
偏頭痛治療薬	310	57	18.4%	40	12.9%
骨そしょう症治療薬	310	42	13.5%	21	6.8%
過敏性腸疾患治療薬	310	51	16.5%	23	7.4%
頻尿、失禁治療薬	310	113	36.5%	91	29.4%

■回答者の属性設問

F1. あなたの所属施設について、あてはまるものをお選びください。

所属施設	対象	回答数	割合
調剤を主とする薬局(調剤薬局)	310	69	22.3%
調剤及びOTC薬など販売をともにする薬局(いわゆる一般の薬局)	310	226	72.9%
調剤併設ドラッグストア	309	8	2.6%
その他	310	7	2.3%

F2. あなたの勤務する薬局のスタッフの数についてお知らせください

F2-1常勤薬剤師

人数	対象	回答数	割合
1人	309	129	41.7%
2人	309	113	36.6%
3人	309	35	11.3%
4人	309	13	4.2%
5人以上	309	19	6.1%
平均	2.1		

F2-2非常勤薬剤師

人数	対象	回答数	割合
0人	309	145	46.9%
1人	309	96	31.1%
2人	309	42	13.6%
3人	309	15	4.9%
4人	309	5	1.6%
5人以上	309	7	2.3%
	0を含む	0を含まない	
平均	0.9	1.8	

F2-3登録販売者

人数	対象	回答数	割合
0人	309	167	54.0%
1人	309	83	26.9%
2人	309	38	12.3%
3人	309	14	4.5%
4人	309	2	0.6%
5人以上	309	5	1.6%
	0を含む	0を含まない	
平均	0.8	1.7	

F3. あなたの薬局で取り扱っている医薬品数をお知らせください。おおよその数値でかまいません。

F3-1医療用医薬品(同一規格のものは一製品とする)

医薬品数	対象	回答数	割合
500製品以下	310	69	22.3%
501～1000製品	310	137	44.3%
1001～1500製品	310	64	20.4%
1501製品以上	310	40	12.9%
平均	938		

F3-2一般用医薬品(第一類)

医薬品数	対象	回答数	割合
5製品以下	282	55	19.6%
6～10製品	282	87	31.0%
11～15製品	282	38	13.5%
16製品以上	282	102	35.9%
平均	14		

F3-3 一般用医薬品(第二類)

医薬品数	対象	回答数	割合	
50製品以下		305	107	35.2%
51～100製品		305	68	22.4%
101～150製品		305	26	8.6%
151製品以上		305	104	33.9%
平均	16			

F3-4 一般用医薬品(第三類)

医薬品数	対象	回答数	割合	
50製品以下		306	110	36.1%
51～100製品		306	64	21.0%
101～150製品		306	22	6.9%
151製品以上		306	110	36.1%
平均	169			

F4. あなたの勤務する薬局で応需している平均処方箋枚数をお知らせください。およその数で構いません。

平均処方箋枚数	対象	回答数	割合	
500枚以下		310	149	48.2%
501～1000枚		310	62	20.1%
1001～1500枚		310	33	10.4%
151枚以上		310	59	19.1%
欠損				
	欠損を含む	欠損を含まず		
平均処方箋枚数		949	971	

F5. あなたの勤務する薬局の訪問服薬指導の実施の有無をお知らせください。また、実施している場合、月当たりの平均患者数もご記入ください。およその数でかまいません。

月当たり平均患者数	対象	回答数	割合	
1～5人		310	42	13.5%
6～10人		310	7	2.3%
11～15人		310	2	0.6%
16人以上		310	16	5.2%
訪問服薬指導を実施していない		310	247	79.7%
平均	0を含む	0を含まない		
月当たりの平均患者数		4	19	

F6. 薬局でのあなたの立場をお知らせください。

	対象	回答数	割合	
経営者		310	199	64.4%
店舗責任者		310	71	23.0%
一般薬剤師		310	30	9.7%
その他		310	10	2.9%

F7. あなたのご年齢をお知らせください。

F7. あなたのご年齢をお知らせください。	対象	回答数	割合	
20歳代		310	6	1.9%
30歳代		310	40	12.9%
40歳代		310	69	22.3%
50歳代		310	122	39.2%
60歳代		310	62	20.1%
70歳以上		310	11	3.6%

< 回答者の地域 >

地域	対象	回答数	割合	
北海道		128	8	6.3%
東北		128	7	5.5%
関東		128	29	22.7%
中部		128	23	18.0%
近畿		128	30	23.4%
中国		128	6	7.0%
四国		128	9	4.7%
九州沖縄		128	16	12.5%

別紙1: 医師用調査項目

平成 23 年度厚生労働科学研究 セルフケア協力者向け調査〈医師〉

- Q1. あなたの活動されている地域では、地域住民が健康相談を受ける機会としてはどのようなものがありますか。あてはまるものをすべてお選びください。その他があれば、具体的にご記入ください。(回答はいくつでも可)
1. 自治体が行う集団健診
 2. 医療機関で行う個別健診（自治体の委託健診や人間ドックも含む）
 3. 自治体が行う健康相談（健康フェア/祭り等も含む）
 4. 薬局店舗でのセルフチェック
 5. 保険組合、農協・商工組合が行う健診、健康相談、健康イベントなど
 6. 企業が開催する健康フェア・イベントなど
 7. その他
- Q2. 地域住民の方の健康相談をより効果的に行うために、連携するとよいと思われる医療関係職種としてはどのようなものがありますか。あてはまるものをすべてお選びください。その他があれば具体的にご記入ください。(回答はいくつでも可)
1. 薬剤師
 2. 保健師
 3. 看護師
 4. 歯科医師
 5. 栄養士
 6. 医療ケースワーカー
 7. その他
- Q3. 一般生活者が自らセルフチェック、セルフケアを行う際に、どのようなリスクが懸念されると思われますか。また、そのリスクを最小化するにはどのような対応が必要とお考えですか。具体的にご記入ください。(回答は自由記載)
- Q4. 一般生活者に対して、セルフチェック（血圧を自己測定したり健診を進んで受けるなど）の結果の解釈やその後の行動（受診など）を起こすことを支援する体制（関わる人、物、機関等）を地域で構築する必要があるとお考えですか。あてはまるものをひとつお選びください。(回答は1つ)
1. 支援体制を新たに構築する必要がある
 2. 現状の支援体制を強化する必要がある
 3. 支援体制はすでに整っている
 4. 支援体制は特にないが、構築する必要はない
 5. わからない
- Q5. Q5 は、Q4 の回答により回答いただく質問が異なります。ご注意ください。
1. (Q4 で「1」をご回答された方のみご回答ください。) どのような支援体制を構築すべきとお考えですか。また、その理由もご記入ください。
 2. (Q4 で「2」をご回答された方のみご回答ください。) どのように支援体制を強化すべきとお考えですか。また、その理由もご記入ください。
 3. (Q4 で「3」をご回答された方のみご回答ください。) どのような支援体制をすでに構築されていますか。具体的にご記入ください。

4. (Q4で「4」をご回答された方のみご回答ください。)
支援体制が必要でないと思われる理由をご記入ください

Q6. 地域住民がセルフチェック（血圧を自己測定したり健診を進んで受けるなど）についての知識を得て、自らの健康を管理する意識をもち、健康を維持するよう行動を変えていくために、どのような取り組みが必要と考えますか。具体的にご記入ください。（例：高校までの学校教育での健康教育、地域住民への講演会など）

Q7. 地域薬局*との下記点の関わり方について、過去1年間の状況にあてはまるものをそれぞれひとつお選びください。また、その他、地域の薬局との連携活動や関わりがあれば、その内容と頻度をご記入ください。

*地域薬局とは、特定の薬局だけでなく、あなたの活動する地域にある薬局すべてをまとめてお考えください。（1～4はあてはまるものをひとつ選択ください、4～6は数値をご記載ください、7は自由記載）

1. 処方箋を院外薬局へ出されていますか
 1. すべてを院外へ出している
 2. 一部を院外へ出している
 3. 院外へ出していない
2. 薬局へくすりの情報の問合せを行うことありますか
 1. よく行っている（毎週）
 2. ときどき行っている（月に1～2回程度）
 3. まれに行っている（年に数回程度）
 4. ほとんど行っていない
 5. 行っていない
3. 薬局からの問合せ（疑義照会を含む）に回答することはありますか
 1. よくしている（毎週）
 2. ときどきしている（月に1～2回程度）
 3. まれにしている（年に数回程度）
 4. ほとんどしていない
 5. 回答していない
4. 薬局から患者さんを紹介されたことはありますか。紹介されたことがある場合は、その人数をご記入ください
 1. ある
 2. ない過去1年間の紹介患者数
5. 在宅医療を行なっていらっしゃる場合、何人ぐらいの患者さんで薬局と協力体制（薬のお届け、訪問服薬指導など）を築きましたか（往診同行も含む）
過去1年間で薬局と協力した患者数
6. 過去1年間での共同で行った勉強会の回数
7. その他、地域の薬局との連携活動や関わりがありましたら、その内容と頻度をご記入ください

Q8. 地域薬局*の薬剤師の行っている服薬指導について、満足されていますか。各事項について、あてはまるものをお選びください。また、その回答を選ばれた理由もご記入ください。

*地域薬局とは、特定の薬局だけでなく、あなたの活動する地域にある薬局すべてをまとめてお考えください。（回答はそれぞれひとつ）

1. 薬の服用方法についての説明
 1. 大変満足
 2. ほぼ満足
 3. やや不満
 4. 不満
 5. わからない

理由：

2. 薬の有効性についての説明

1. 大変満足、2. ほぼ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない

理由：

3. 薬の副作用についての説明

1. 大変満足、2. ほぼ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない

理由：

Q9. 地域の薬局がもっと住民のセルフチェックや病気の予防に関わるためには、どうすれば良いと思いますか。あてはまるものすべてをお選びください。その他がありましたら、具体的にご記入ください（回答はいくつでも可）

1. 薬剤師の医療者としてのマインドの醸成
2. 薬剤師の知識（予防のための知識、技能など）の向上
3. 薬剤師の患者さんとのコミュニケーションスキルの向上
4. 行動科学や患者心理の学習
5. 医師、栄養士、保健師等の医療関係者と、どのような場合に、どのように連絡するか（潜在患者の紹介を含む）など、あらかじめ合意した手順を定める
6. ITシステム・インフラ等の整備
7. その他

ここからは、あなたの治療における一般用医薬品（OTC 医薬品）、サプリメント、特定保健用食品などの必要性についてお聞きします。

現在、一般用医薬品は、生活者に対する情報提供の必要性の程度によって第一類、第二類、第三類の3種に分けられています。第一類には主にスイッチ OTC 医薬品があり、H2 プロクター、禁煙補助剤、第二世代の水虫薬、第二世代抗ヒスタミン薬、アシクロビル軟膏、ロキソプロフェン錠、膈カンジダ用軟膏などがあります。第二類には漢方薬、総合感冒薬、総合胃腸薬などが、第三類には、栄養剤、ビタミン剤などがあります。

第一類では販売時に薬剤師による情報提供等の関与が義務化され、第二類では薬剤師または登録販売者による情報提供が努力義務とされています。

Q10. 一般用医薬品（いわゆる OTC 医薬品）についてどれくらいご存じですか。あてはまるものをひとつお選びください。（回答はひとつ）

1. 一般用医薬品に、第一、二、三類の分類があることを知らなかった
2. 一般用医薬品に、第一、二、三類の分類があることは知っていたが、具体的にどのような医薬品が各分類に入っているかよく知らなかった
3. 一般用医薬品はよく理解している

Q11. あなたは一般用医薬品の使用を患者に勧めたことがありますか。あてはまるものをひとつお選びください。（回答はひとつ）

1. ない
2. ある

Q12. Q11 で「2」を選択された方にお聞きします。あなたはどのような場合に、一般用医薬品の使用を患者さんに勧めましたか。あてはまるものをすべてお選びください。その他がありましたら、具体的にご記入ください。（回答はいくつでも可）

1. 医療用医薬品では用量が多すぎると判断された場合（例：経口の鉄剤）
2. 医療用医薬品に適切な成分がない場合
（例：壮年性脱毛症治療用のヘアトニック）

3. その他

Q13. あなたはサプリメント、特定保健用食品を治療に活用されたことがありますか。
(回答はひとつのみ)

1. ない
2. ある

Q14. Q13 で「2」を選択された方は、具体的な活用事例をご記入ください。
(回答は自由記載)

F1 あなたの所属施設は以下のどちらですか。(回答はひとつ)

1. クリニック・診療所
2. 病院 (20床以上)

F2 あなたの所属する医療機関内に薬剤師は勤務していますか。(回答はひとつ)

1. 勤務している
2. 勤務していない

F3 あなたの主な診療科をお知らせください。(回答はひとつ)

- | | | |
|------------|------------|----------------|
| 1. 総合診療科 | 11. 心療内科 | 21. 小児科 |
| 2. 一般内科 | 12. 膠原病科 | 22. 耳鼻咽喉科 |
| 3. 循環器科 | 13. 精神・神経科 | 23. 眼科 |
| 4. 腎臓内科 | 14. 外科 | 24. 口腔外科 |
| 5. 消化器科 | 15. 整形外科 | 25. 放射線科 |
| 6. 呼吸器科 | 16. 形成外科 | 26. 麻酔科 |
| 7. アレルギー科 | 17. 脳神経外科 | 27. 救急医療科 |
| 8. 代謝・内分泌科 | 18. 泌尿器科 | 28. リハビリテーション科 |
| 9. 血液内科 | 19. 皮膚科 | 29. リウマチ科 |
| 10. 神経内科 | 20. 産婦人科 | 30. その他 |
30. その他の場合は、具体的にご記入ください。

F4 あなたが診られている月あたりの平均患者数をお知らせください。およその数字でかまいません。(回答は数値) 月当たり平均 () 人

F5 あなたは居宅(在宅)医療を実施されていますか。実施している場合、月当たりの平均患者数もご記入ください。実施していない場合は、「0」とご記入ください。
(回答は数値) 月当たり平均 () 人

F6 あなたのご年齢をお知らせください。(回答はひとつ)

1. 20代
2. 30代
3. 40代
4. 50代
5. 60代
6. 70才以上

今後、本研究について引き続きご協力をお願いしたい場合がございますので、差し支えなければ、お名前と連絡先を教えてください【任意】

氏名：

メールアドレス：